

令和3年 市政ふれあい懇談会懇談要旨

- 開催日時 令和3年11月21日（日）10時から12時
- 開催場所 新木近隣センター
- 参加者 市民15名
- 出席者 星野市長、廣瀬総務部長、小林企画財政部長、隈市民生活部長、
柏木環境経済部長、南川建設部長、森都市部長
他管理職11名
- 懇談要旨

市民：2つお聞きしたい。最初は消防署の件についてです。今は基本設計中とお聞きしました。以前から自然エネルギーの話が出ていましたが、CO2ゼロという目標に向けて地熱発電を導入してほしいと思います。

2つ目はカメムシについてです。前はイナゴがたくさんいましたが、今は虫が完全になくなってしまいました。農薬散布によってどのくらいカメムシが減ったのか調査されましたでしょうか。虫だけではなく、水中昆虫も減ってしまったのではないかと思います。また、虫以外でも鳥にも影響が出ているのではないかと思います。自然保護を踏まえた形で進めてほしいと思います。

環境経済部長：カメムシ対策として無人航空機で空中散布の支援を市で実施しています。カメムシの調査は行っていて、空中散布の前後で、虫取り網ですくい取る方式で行っています。余計な農薬を使わず、適正に行っていますので、環境にも配慮しています。

市長：消防署については、自然エネルギーを活用する形で進めていますが、地熱は場所的に難しそうで、太陽光を導入することを考えています。地熱は、今回の建設場所においては、費用対効果が少ないと聞いております。学校でも太陽光パネルを設置していて、建て替え時にも検討していきます。クリーンセンターについても、太陽光と、余剰熱エネルギーの活用を考えております。

市民：地中熱は10年とかで元が取れます。消防施設は長い期間使っていく施設だと思いますので、長期間使用を考えてほしい。我孫子の場合は地下水が豊富ですから、ぜひ地熱を市の施設で活用してほしいと思いますので、再検討をお願いしたい。

市長：費用対効果で検討しています。同じ電気量であれば初期投資が少ない方で検討したいと思います。今までは分署でありましたが、署として建設されます。現在の場所は、URから寄贈された建物ですので、消防車を置くことは想定しておりませんでした。現在、出動件数により、消防隊を増やし、消防車や資器材を増設しました。今後は、救急件数に合わせて、救急隊を増設していく考えです。それに合わせて車両を増やす予定です。このように色々と経費が掛かってくる中で、同じ発電能力であれば、経費が安いものを導入していきたいと考えます。また、地熱はかなり経費が掛かると聞いております。

市民：交通の問題についてです。新木地区はバスが少ない。阪東バスも少ない。この状況を市として、どのように考えているのでしょうか。

市長：今、新型コロナウイルスのため、移動する人が少ない状況です。バス事業者やタクシー業者もかなり厳しい状況で、減便や、タクシーの夜間運航の廃止等の対応をとっているようです。成田線は減便されずに済みましたが、房総などの地方では減便しています。特に臨時列車が少なくなりました。皆さんが乗らなければ、増やすことはできません。かといってコロナ禍では、皆さんで出かけましようとは、言えない状況でした。移動が増えないと、今の状況でも仕方がないと思います。ですから、コロナが落ち着かないと、市として要望を伝え、交渉することができないという状況です。なお、布佐から天王台へのシャトルバスのテストも構想をしておりましたが、コロナのため、来年度にずらすことにいたしました。テスト走行後に定期便にすることを考えておりましたが、それも今の状況では難しいところです。運航することになった際には、皆様にご意見をいただきたいと思います。

市民：あびバスについてです。356号の停留場がなくなりました。上新木から湖北駅まで今までは5分で行けたのが、15分ぐらいかかります。日秀観音と田口医院前にバスの停留場を作ってほしいという要望です。

建設部長：現行のあびバスの新木ルートについては、車両の入れ替えの際に皆様の意見や、車両の通行できる道路等でルートを決めました。停留場や、ルートについては様々なご意見があることは承知しております。ルート変更や運行時間帯については、地元まちづくり協議会や自治会等からお話を聞き、再度検討していきたいと思っております。

市長：あびバスのルートについては、いろいろな方から意見があります。廻るところが増えると便数が減ってしまいます。逆に停留場を減らせば、便数は増えます。どのようにしたらいいか、検討したうえで、今のルートになっています。また、車両が変わり、小回りができないようになってしまったため、通れるところも変わってしまいました。皆さんの意見を聞きながら、今後も検討していきたいと思います。356号を通るルートについては、阪東バスが、路線の廃止も含め検討しています。利用者が少ない中では、どのような対応をとるか検討している最中です。なお、担当課につきましては、以前は交通課でしたが、交通課が統合され、現在道路課で検討しています。

市民：カスミの西側の踏切から国道につながる道が拡張されました。国道356側の方の拡張はあるのでしょうか。国道から踏切に向かっての入り口の10mが狭いままの状態です。すれ違う際に危険ですので、踏切から国道に入るところの停止線を広くなったところまで、5m程度下げしてほしいと思います。

建設部長：時間をいただき、ようやく歩道の整備をさせていただきました。国道の入り口に関しては、地権者の同意がいただけていない状況です。今後も交渉を続けてまいります。

なお、停止線については、警察の管轄ですので、状況を含めて伝えていきたいと思います。

市民：事故が起きてからでは遅いと思います。

市長：停止線などの法規制部分は、警察の範疇なので、粘り強く交渉していきたいと思います。6号は国が直轄で、356号と船橋我孫子線、土手沿いの道については県の管轄となっております。県の交通関係の予算が少ないため、道路整備予算の増額を要望しており、予算がないと警察としてもできない状況であります。信号機もLED化しておりますが、県内で30か所程度しか増設できない状況です。こういった部分については、知事へ要望をあげております。道路については、横断歩道の線が消えかかっている箇所が多くなってきている場所もあります。予算を増やさないとできないので、ご指摘の箇所については、警察と協議を続けていきたいと思います。

市民：通学路の見回りをしております。あずま台の舗装がガタガタしています。一部はきれいになりましたが、その先は変化がありません。補修をしたが、工

事はしていない状況です。中途半端に5、6年放置されています。事故が起きてからでは遅いので、お願いします。

建設部長：山裾の田んぼの道ということでよろしいでしょうか。現在、確かガスの工事をして、仮復旧の状況と聞いております。ガス会社と協議をして、時期を合わせて、なるべく早くいっぺんにできるように調整していきたいと思えます。引き続き対応してまいります。

市民：私は1日おきに散歩していますが、空き家から樹木が飛び出ているところが多くあります。空き家バンクがあることは承知していますが、実績はあるのでしょうか。

都市部長：空き家バンクについては、以前であれば件数は多くありませんが、申請されれば、すぐに見つかるような状況でした。今は在庫的にはほとんどない状況です。市としましては、課税の通知等に合わせて啓発を行っておりますが、なかなか進んでいない状況です。細かい数字については、課長からお話します。

建築住宅課長：現在のところ、平成30年の3月から事業が始まり、今年度から8件申請があり、すべて利活用が決まりました。1件は途中で申請取りやめとなったため、実際に活用できたのは7件です。課税の通知に合わせて啓発を行っています。広報でも周知しておりますが、現在3、4件は登録まで至っておりませんが、協議をしている状況です。

市民：道路についてです。新木駅前の京葉銀行がある交差点についてですが、横断歩道を待つ場所が非常に狭い。先日も人身事故が起きました。改善する計画はありますか。

建設部長：先ほども市長がお話したとおり、県と警察が所管しているのですが、改善計画はないと聞いています。現地を確認し、県や警察と協議をしていきたいと思えます。

市民：新木駅の南口駅前の花壇は自治会で管理しています。今後も維持管理していきたいので、支援をお願いしたいと思います。今年の夏も、雑草を除去していただきました。

それでは、このことを含めて4点お願いがあります。南新木には2か所通学路がありますが、新木踏切から356号に向かう通学路が狭く、車1台しか通

れません。拡幅し、一部は広くなりましたが、スピードを出す車があります。資料を持ってきたので、懇談後に担当課に説明したいと思います。次に道路に出ている樹木についても相談したいと思います。最後に南新木3、4丁目のセブンイレブンから西側に向かう道について、ヤマボウシが伸びて街路灯が隠れている箇所がありますので、剪定をお願いしたいと思います。

建設部長：駅前広場の美化につきましては、ご協力をいただき誠にありがとうございます。微力ではありますが、引き続き支援を続けていきたいと思っています。また、新木踏切については、長年の懸案事項です。地権者との交渉は、引き続き粘り強く続けていきたいと思っています。細かい点は後程、お聞きしたいと思っています。

市長：駅前については、ありがとうございます。各駅前には市民の皆さまの協力できれいに保てております。道路の拡幅については、地権者の協力が必要となりますので、了解が得られないと難しいです。色々なご意見がありますが、地権者との交渉を続けていきますので、ご理解いただきたいと思っています。

市民：新木駅南口の花壇に桜の木を植えていただきましたが、大きくなったため、剪定が必要な状況でしたが、市としては原則、剪定はしないと聞きました。放置すると大きくなってしまいますので、今後、どうするのか考えをお聞きしたい。

建設部長：色々ご協力をいただき、ありがとうございます。桜の木ですが、枝を切ると病気になりやすいことから、市としてもあまり切らないようにしております。ただし、歩行等に支障があるところについては、最小限の枝払いのみ行っており、防腐処理も行っています。市としましては、担当課と協議をして、最小限での対応をしていきたいと思っています。

市民：新木では、あわんとりを毎年行っています。来年1月にも実施する予定です。その際に使用する萱や葦などを、ゆうゆう公園等でとっていますが、今後も続けていきたい考えです。市民体育館前の保護区の葦を刈らせてほしいと頼み、了解を得たのですが、いつも刈り取っているところが、ブルドーザーが入り、なくなってしまいました。市の協力がないと継続できないため、毎年できるように配慮いただきたいと思っています。

公園緑地課長：11月初旬にスポーツ少年団の駅伝大会に向けて、夏にゆうゆう公園に水が上がり、道路部分にも土砂がたまっていたため、ブルドーザーを使用

し整備をしたことから、無くなってしまったようです。葦については、市民体育館前の自然観察区域のところに沢山ありますので、そこをお取りなっただけだと思います。

市長：市では、イベントがなければ基本的には、整備しておりません。葦等については、教育委員会の管轄の場所もありますので、どちらからかとれるように工夫したいと思います。

市民：近年、古い自治会の中に新しい家が建ったりしていますが、自治会に入らない人が多くおり、まちづくり協議会にも入らない方が多くなってきておりますので、市として、これから先はどのように考えているのかお聞きしたい。

市民生活部長：市には、自治会に入らないといけないか、という問い合わせがたまに入ります。我々としては、加入して、情報を得たり、コミュニティーを作っていくってほしいと考えておりますが、強制はできません。各地区の状況もありますので、市としてこうあるべきだということを、示すことはなかなか難しいと考えます。理想はすべての方に入ってもらっていただき、活動をしてほしいと思っております。

市長：新しい住宅地には、自治会に入らない人がいるのは、存じています。自治会ですので、市としては、加入の強制はできません。ただ、震災の際では共助が大変重要になってきます。布佐の都自治会はほとんどが被災しましたが、公助の前に、共助ができていました。市の職員が行った時には、既に隣の自治会から援助を受けており、公助が入った時も炊き出しなどのお手伝いをしてくれました。地元の学生など、若い方も手伝ってくれまして、家具などの重いものを処分するのを手伝ってくれました。日頃からの近所のお付き合いというのは、挨拶をする程度であっても、大きく影響するのだと感じました。残念ながら強制加入は出来ないことを前提にお話をさせていただきました。また、古い自治会では自治会持ちの所有地があったりしますので、そういった土地や集会所などは、古くからお住いの住民の方々がお金を出し合って建てたものですから、新しい方は、入れないから、新しい自治会を立ち上げることになったという自治会もあります。言えることは、災害が起きた時に大変助かることが共助であり、自治会の活動が心強いものだということです。

市民：自治会に入れたい人は、5、6世帯でも自治会を作ることはできるのでしょうか。

市民生活部長：世帯数の基準はありません。そこにお住いの方が、希望すれば作ることができます。

市 民：まちづくり協議会の会員が高齢化してきて、活性化としては若い人達が参加しない。今後、無くしていくのか、存続していくのか方向性など、どのように位置づけているのか。今後の方針をお聞かせください。

市民生活部長：他のまちづくり協議会でも同じ課題があります。我々としまでも、無くすという考えは無く、存続してほしいと考えています。後継者をどのように見つけるかは、それぞれの地域によっても異なりますので、ご相談をいただきながら、引き続き、活動をお願いしたいと考えております。

市 民：何もしなければ、新木まちづくり協議会はあと5年ぐらいで、なくなってしまうのではないかと思います。新しい人を集めようと思っても集まらない。市からも、まちづくり協議会がどのようなものなのか、周知してほしいと思います。

市民生活部長：他のまちづくり協議会でも同じ声があります。根戸は、まちづくり協議会がなく、市民活動支援課で近隣センターを管理しています。ただ、現在は自治会の中で、コミュニティーが大切という話はあがってきています。祭り等の賑わいがあるといい、という話も出ています。今後は、市もサポートをしていきたいと考えております。

市 長：どこでも高齢化が進んでいると聞いています。市では、広報の元旦号で周知する予定でいます。高齢化が進んでいる地域などでは、イベントが多く負担になっていけば、イベント数を少なくしたり、規模を小さくしていく工夫が必要であると考えます。若い方々は、共働きの方が多く負担感が大きく、今までのようにできないと考える人が多いようで、各まちづくり協議会で、どのイベントを残すのか等、検討していく必要があると考えます。また、市としても職員一同、協力していきたいと思えます。将来的には、今と同じ活動はできないかもしれませんが、時代に応じた変化が必要であると思えます。